実りある人生を「家族の会」とともに

●●5（全12回・分担執筆）●●

我が家で家族とともに

認知症の人と家族の会埼玉県支部
事務局長　安藤　幸男

第１回（全２回）

介護との出会い―母の介護

私が介護の仕事に関わるきっかけは、母への介護が強く影響したように思われます。私の高校生時代（1958～1961年）は、父が地元の村役場勤務（収入役）、私は５人兄弟ですが、兄・姉の３人は既に家を出ており、中学生の弟は母が病弱のため姉宅へ、よって父母と私の３人暮らしでした。

学校帰りに入院中の母を見舞ったり、帰宅後は夕食作りと家事全般を担当しておりました。兄は自分の結婚式に参列できない母を見かね、母を東京警察病院で受診させ、胃の摘出手術となりましたが、既に癌は転移しており、再発は免れない状態でした。退院後、徐々に食事も摂れるようになり、体力もついてきましたが、退院１年後に再発、それからは今では考えられないほどの癌痛とのたたかいでした。当時は電話も車もなく、一日に何度も診療所にバイクを飛ばし、医師の往診を依頼、最後の数ヵ月は昼夜を問わず、介護に当たりました。母の体調が崩れてから約３年間の家事・介護でしたが、青春の貴重な体験となりました。

貧弱な在宅福祉

社会に出てからも、この体験が忘れられず、将来進展するであろう高齢化を憂い、高齢者福祉に人生を賭けようと1973（昭和48）年、父から山林の提供を受け、特別養護老人ホームを建設。1975年開園し、介護の人生がスタートしました。

特別養護老人ホームでは、健康で衛生的な生活のためとして、週２回以上の入浴が定められていますが、在宅から入居してきた方から「１年ぶりの入浴だ」「２年ぶりだ」とい

豪雨災害に遭われた皆さま、お見舞い申し上げます

７月初めの記録的な豪雨では、西日本を中心に大きな被害に見舞われました。本部には、全国から被災地の仲間を心配して、問い合わせやお見舞いが多数寄せられました。

各支部代表を先頭に支部世話人と協力して、被害地区の会員に連絡を取り、支部を通して把握できた被災状況です。（７月24日現在）

◇　◇

■**岡山県倉敷市真備町**では、要介護１の母を介護中の会員宅と要介護５の妻を介護中の会員宅が、２軒とも人的な被害はなかったものの、ご自宅の１階の天

う声に驚き、また当時は本人・家族の特別養護老人ホーム利用料負担が少なく、その上、敬老の日には専売公社からタバコが無料で配布される、県知事からは慰問品まで届くなど、年金での生活が主体の在宅に比べ、施設では生活のすべてが公費で賄われ、年金は手つかずで残り、在宅との格差は歴然でした。

高齢になり介護が必要になっても、家族の声が聞こえる“住み慣れた我が家”、友人・知人のいる馴染みの地域で、一日でも長く生活できる。そんな在宅介護を何とか充実出来ないものだろうか…施設と在宅の格差を痛感した私の在宅介護への思いは、ますます募りました。

1980年、青春をかけ開設した特養ホームの施設長を辞し、在宅介護の拡充を願い、民間企業では初の在宅介護事業、株式会社「福祉の街」を創業しました。創業の準備中、近所の農夫から「幸男さん、今後は何をするの？」と尋ねられたので、「家庭で入浴できない高齢者の方々に入浴を届ける仕事です」と答えますと、「何も寝たきり老人の尻を洗わなくても、他に仕事はありそうなものだ」と言われました。当時の在宅介護を象徴している言葉として、今も心に残っています。

今でこそ、日本を代表する大手企業をはじめ、多くの民間企業が介護事業に参入しておりますが、1980年代当初は、民間企業による高齢者福祉を目的とする会社は全国でも数社でした。当時、福祉は行政が行うものという意識が強く、役所に営業に行っても、「福祉で金儲けをするのか！」「福祉を食い物にするのか！」等々、対応は冷ややかなものでした。創業はしたけれど仕事の依頼がなく、連日、市町村の高齢介護主管課に在宅介護の必要性、民間企業の効率性を説く日々が続きました。

安藤（あんどう）　幸男（ゆきお）

●プロフィール●

1975年～1980年	特別養護老人ホーム設立、施設長
1980年～現在	株式会社福祉の街設立、現在代表取締役会長
1981年～現在	「家族の会」埼玉県支部発足に参加、現在事務局長
1988年～2002年	全国入浴福祉事業協議会、理事・会長歴任
1992年～2013年	「家族の会」本部理事、2005年～2013年まで常任理事
1998年～現在	埼玉県在宅福祉事業者連絡協議会会長、現在顧問
2002年～2010年	全国介護事業社協議会発足に参加、副会長
2012年～現在	セントケア・ホールディング（株）取締役、現在特別顧問

「家族の会」との出会い

ほとんど仕事もない日々。1981年のある日の朝刊埼玉版にぼけ老人介護家族のつどいが目に止まり、「家族の会」を知りました。２回目のつどいに参加、そこで介護家族から「連日の徘徊に困り、役所に行ったが相談に乗ってもらえない。特養ホームにも入居相談に行ったが、寝たきりなら入居できるが、歩ける人は他の入居者に迷惑をかけるので入居できないと言われた」とのこと。入居基準は満たしていても歩けるがゆえに、敬遠されていたのです。かつての特養ホーム経験者として、介護家族と施設との調整役になれればとの思いから、「家族の会」に関わることになりました。　（つづく）

井を越える浸水で、家屋が全壊の被害でした。お二人には支部から何度も連絡を試み、訪問もして状況をつかみ、「家族の会」災害救援基金より早急にお見舞金を届けることができました。その他、世話人、賛助会員にも、自家用車の冠水や床下浸水などの被害がありました。

■**愛媛県宇和島市三間町**の世話人宅が、床下浸水の被害がありました。

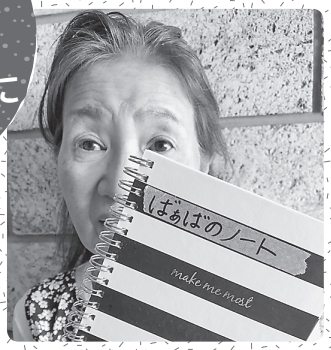
■**岐阜県関市**の世話人宅が床下浸水、農地の冠水・流失などの被害がありました。

■**広島県**では、幸い被害を受けた会員はいませんでしたが、大きな被害に見舞われた安芸郡坂町で若年性認知症の夫を介護する会員と連絡がつき、無事を喜びあったとのこと。この方は７年前に入会されましたが、仕事の都合で“若年のつどい”には参加できず、会報だけが頼りで、届くのを楽しみに待っているとおっしゃっていたそうです。

◇　　◇

なお、「家族の会」では、会員対象に「災害救援基金」を設けています。被害に遭われた方は、本部または支部にご相談ください。

本人登場
私らしく仲間とともに
No.154



寺野（てらの）　清美（きよみ）さん
64歳・大分県支部

長女ご夫婦とお孫さん３人の６人家族の寺野さん。バレーボール仲間であり、７月から寺野さんが働かれているグループホーム管理者の川浪和恵さんが、寺野さんのこれまでの経過と思いをまとめてくださいました。
（編集委員　松本律子）

寺ちゃん、なんしよると?!

はじめのころ（2017年夏）は、「バレー仲間みんなで私を病人扱いして。私はトシ相応のもの忘れなのに！」と正直アタマにきていた。そんななか、バレーの試合の当日、二女から「お母さん、試合の準備できた？」と電話をもらって気づいた。パニックになり、ユニフォームやシューズの準備ができないまま試合会場へ行った。チームのみんなから、「寺ちゃん、なんしよると?!」と叱られる。秋には、職場（デイサービスの調理員）で、上司や同僚から間違いを指摘されることが増え、「こんなはずじゃなかった」という思いと、「なんでみんな、私に意地悪するん?!」という憤りが入り混じった。

長女と一緒に隣町の「もの忘れ外来」を受診

その年の12月末だった。検査が終わって診察室へ入ると、「今日から車の運転はできませんからね」と言われ、手足をもぎ取られたような気持ちだった。はっきりと病名は告げられなかったけれど、正直、「死にたい」って思った。今も時々は思うけど、でもそんなことをしても娘たちは喜ばないし、悲しませることはしたくない。

就労に向けて関係機関と話し合い
（右から２人目が寺野さん）

孫たちが「“ばあば”のノート」を作ってくれた…

病院から自宅へ帰りつくと、長女が孫たちを２階の部屋へつれて上がり、何か話していた。

いま思うと、あの時、家族みんなで「“ばあば”を支えようね」って言ってくれていたのかもしれない。孫たちは「“ばあば”、忘れるから」と「“ばあば”のノート」を作ってくれて、私が忘れないようにと、家のなかのあちこちに張り紙をしてくれている。

認知症やけど、私は私やん！

認知症だってことを受け容れて、頑張るしかない。だって考えてもしょうがないもん。認知症やけど、私は私やん！それに、みんなが支えてくれるからいいやん、って思う。

今は私にできることをして、仕事もして、家族のために頑張っていきたいって思う。「花・花」（グループホーム）のみんなは優しいし、居心地が良い。失敗していることもあるかもしれないけど、注意されたこともないし、ちょっとしたことでもす～ごく褒めてくれるから、ここ（花・花）にくるのが楽しい。

今の楽しみは、幼馴染たちと「女子会」をすること。バレーボールも下手やけど、好きだからずっと続けたい。

情報コーナー　本人交流の場
（詳細は各支部まで）

宮城◉9月6日・20日㈭10:30～15:00/翼のつどい→泉区南光台市民センター
山形◉9月15日㈯13:00～15:00/置賜のつどい・本人のつどい→すこやかセンター
埼玉◉9月26日㈬11:00～13:00/若年のつどい・大宮（北区）→地域包括支援センター　諏訪の苑
神奈川◉9月9日㈰11:00～15:00/若年性認知症本人と家族のつどい→ほっとぽっと
静岡◉9月11日㈫10:00～13:00/若年性のつどい→富士市フィランセ西館
愛知◉9月8日㈯13:30～16:00/「元気かい」→東海市しあわせ村
京都◉9月30日㈰13:30～15:30/若年のつどい→京都社会福祉会館
鳥取◉9月26日㈬11:00～15:00/中部にっこりの会→かふぇとまと
広島◉9月15日㈯11:00～15:30/陽溜まりの会北部→三次市十日市コミュニティセンター
長崎◉9月15日㈯13:30～15:30/若年性認知症の人と家族のつどい→小鳥居諫早病院デイケア室

会員さんからのお便り

このコーナーに寄せられたお便りの他、入会申込書、「会員の声」はがき、支部会報から選び掲載しています。

お便りお待ちしています！

〒602-8143 京都市上京区猪熊通丸太町下ル
仲之町519番地 京都社会福祉会館内
〈「家族の会」編集委員会宛〉
FAX.075-811-8188
Eメール office@alzheimer.or.jp

仲間たちに救われています

●兵庫県　Aさん　70歳代　男性

50年連れ添った妻を介護することになって、５月に「家族の会」に入会しました。妻が元気な時には「介護」なんて考えたこともありませんでした。

でも今は、妻の認知症の症状に振り回されています。たとえば洗濯。「これは私の仕事です。後で干してください」と大きな字で張り紙をしているのですが、妻は途中でスイッチを切り、まだ洗えていないのに干そうとします。後で私がもう一度やり直しです。料理でも、フライパンで肉を炒める時、油の代わりにソースをひいたりします。風呂も流すことがわからなくなっているので、私が洗います。どうしたらいいのか考える日々です。愛情を持って介護しなければと思うのですが、あまりに辛いと「自分が死んだ方がましだ」という考えが頭をよぎることもあります。

そんな辛い日々なのですが、認知症カフェで出会った仲間たちに救われています。仲間たちは暖かい笑顔とともに、いろいろな知恵を授けてくれます。サービスをうまく使うこと、介護者の健康が一番、悩みを一人で抱え込まずに相談すること、頑張りすぎないことなど、たくさんのことを教えてくれます。不安だらけですが、何とか乗り切っていきたいと考えています。「お父さんと結婚してよかった」と妻に思ってもらえるような介護を目指します。

「家族の会」が心の支え

●神奈川県　Bさん　60歳代　女性

平成15年、アルツハイマー型認知症だった母は亡くなりました。当時は情報がなく、毎日の対応に追われる日々でした。「家族の会」に入会して、杉山先生のお話を聞き、質問に答えていただき、一気に心が温かくなりました。その後は母の思いを理解できるようになり、後半は言葉が出なくなりましたが、鼻歌を二人で歌っては心を繋げていました。

次は、父がお風呂に入らなくなりましたが、地域包括と医師との連携でサクサクとことが進み、入所がすんなり決まり、今年１月に施設で亡くなりました。93歳でした。その間、いろんなことがありましたが、全国の会員と同じ思いでつながっていることがとても心強かったです。心の支えになっていました。

もう少し頑張って

●山形県　Cさん　60歳代　女性

京都新聞の早川一光先生の「こんなはずじゃなかった」シリーズを興味深く拝読しています。

私も仕事で高齢の方のお話をお聞きすることが多いのですが、先生と同じように「さみしい」「もう死んでもいい」と口にする方がおりますが、その方の本当の気持ちが初めてわかったような気がしています。

先生、もう少し頑張って私たちにメッセージを送ってください。

ゆったりとした二人の時間

●千葉県　Dさん　60歳代　女性

夫が認知症になって７年。心臓手術、そして昨年は脳出血。左半身マヒで自分では動けなくなりましたが、幸い病院からすぐ老健施設に入居できました。ユニット型の一人部屋で経済的には大変です。

週２回、洗濯物を取りに行く時、面会していますが、認知症の進みが早く、話すことがかみ合わなくなりました。夫の空想に付き合って、「そうだねぇ」と話を合わせています。私に頼りきりの夫に、若いころとは違う愛おしさを感じます。忙しかった人生の中で一番ゆったり、二人の時間が流れます。

まさに天の助け…

●滋賀県　Eさん　70歳代　男性

妻は70歳代でアルツハイマー型認知症８年目です。４月からグループホームに入れていただきました。

最近の２～３年は帰宅願望の徘徊というのか、10数回無断外出し、うち３回は警察のお世話になりました。１回目はショートステイから出ていき、警察の見回りで、スリッパをはいて歩いていたので不審に思われ、保護されました。他の２回はショートステイからと家からで、民家からの電話連絡と捜索願で保護されています。

家の建物の出入り口に鍵をかけても無駄なので、屋敷のフェンスの出入り口２ヵ所に鍵を付けました。「帰る」と言うと、「気をつけてね」と言って送り出しますが、しばらくガチャガチャやって家の中に戻ってくるので、「おかえり」と迎えます。それからは少し楽になりましたが、それでも油断はできないので、心身ともに疲れたところに、申請していたグループホームから「空きました」という連絡。まさに天の助けと思いました。

大変ショックでした

●兵庫県　Fさん　70歳代　女性

今年は新年早々、三宅先生の訃報を新聞で知り、大変ショックでした。本部総会、ブロック会議、全国研究集会でお目にかかると、いつも誠実に受け答えしてくださいました。私の中では、もう時代が変わった思いです。夫の介護中で、偲ぶ会には参加できず残念ですが、先生には天国で奥さまとゆっくりと過ごされんことをお祈りしています。合掌。

社会的な活動を続けたい

●埼玉県　Gさん　60歳代　女性

アルツハイマー型認知症との診断を受け、４年たちました。自覚症状はありませんが、家人によれば「物忘れが増え、直前の記憶が悪くなり、同じことを何度も言う」とのことです。父もアルツハイマーで、83歳の人生でした。70歳を過ぎたころより症状が進行して、75歳では要介護の状態となりました。

私はまだ現役で仕事を続けております。少しでも長い間、社会的な活動を続けたいと希望しております。これからも私どもの病を持つ人の力になっていただきますよう、お願い申し上げます。

夜間のトイレに困っています

●新潟県　Hさん　50歳代　女性

夜間トイレで介護する身としては、なかなか眠れず困っています。疲れ方が足りなくて眠りが浅いのか、トイレが近いためなのか、頑張ってトイレに行ってくれるのはありがたいのですが…。なにか良い工夫はないでしょうか。

〈編集委員会より〉良い工夫があれば投稿ください。

※お名前はイニシャルではありません。
年齢は「50歳代」等で表記しています。